

19回目「本来の人間の使命とは」

こんにちは。一般財団法人UNI H&H大学院代表講師の植田です。

19回目は「本来の人間の使命とは」というテーマについてお話しします。

皆さんの人生における使命やゴールは何でしょうか。皆それぞれ小さいものであれ大きいものであれ夢があったり、成し遂げたい志を持って日々活動しているものです。人間は独りでは生きていけませんから、他人から認められたいという承認欲求を持って社会との繋がりの中で自己を認識しています。自我という個人レベルの視点では、マズローの欲求5段階説の最上位である「自己実現」というものがゴールであると言えるかもしれません。

しかしながら、今まで見てきたように、個人の心、脳や身体がより大いなる存在の経験のほんの一部として機能していると考えれば、果たして人生100年をただ生きて終わるとするのは本当に宇宙全体として正しいことなのでしょうか。自己を超越した視点で物事を捉え、全体意識の向上に貢献することが本来のあるべき姿のように思えてくるのは間違いでしょうか。

この宇宙が誕生して138億年、地球の年齢は46億年とされています。巨大な鉄（Fe）の塊がいつしか生命を育み、あらゆる動植物が進化を繰り返し、やがて高度な知能を持つ人間が誕生しました。宇宙の根底を流れる原動力は「進化」のエネルギーです。有史以来、人間は加速度的に叡智を共有し、この宇宙の全相を解明しようと努めてきました。人間がいなければ宇宙はこの宇宙自身を認識できなかったと言われています。宇宙は万物を通して様々な経験を収集し、全体意識の向上（コスモスの目覚め）のために進化していると考えられています。英科学者で未来学者のジェームズ・ラブロック氏の「ガイア理論」は有名ですが、人間を含む地球を一種の「超個体」として捉える考え方は宇宙（コスモス）の目覚めに向けた万物の進化活動を支える基本原理です。

しかしながら、現段階では私たち人間は宇宙全体の5%も分かっていないといえます。

今この目の前の空間にも、私たちの感覚器では認識できないダークエネルギーやダークマターといった暗黒物質が大部分を占めていることが科学的に分かっています。

私たちは「無明」「無知」であることを知らなければいけません。五感で認識できることだけに「執着」し、悩み苦しんではいけないうちに気づかなければいけません。

自我の視点に入り込んでしまうと、他者との比較や憧れや羨望、優劣など多くの分離の意識を生み出してしまい、誰が偉いとか、ノーベル賞をとったからすごいとか、個人のカリスマ性や能力を称え、それらに焦点をあててしまいがちですが、これは果たして地球（ガイア）全体のシステムから考えた場合、地球（ガイア）の本意なのでしょう。

万物とりわけ人間それぞれが大きなエコシステムの中で、全体意識の向上のための活動に寄与しているならば、その中で生まれたり表現される数々の結果に対して執着したり、苦しむ必要はありません。私たちそれぞれが外の世界への執着を離れ、内観を通じて愛の波動を放ち、自らの中に神性を見つけるとき、宇宙はさらに気づきを得て、より大きな叡智の共有へとつながっていくのです。

これは、私たち個人個人の存在を蔑ろにするというわけではなく、全体の一部としての役割を認識し、全体への貢献・寄与として「自分には何が出来るか」を考えることが重要だということです。

では、今回学んだことをぜひ日々の快禅メソッドの実践においても意識して取り組んでみましょう。19回目の動画は以上です。また次回お会いしましょう。